2026.6.26 /日本ギリシャ協会





現代によみがえる八雲とセツと怪談
～アフター「ばけばけ」に思うこと～

小泉　凡







「ばけばけ」を終えて



●「ばけばけ」の意味～3つの「ばけ」～
- 時代の価値観が化ける
（明治・大正・昭和）
- セツが新しいステージで化ける
- ふたりで「おばけ」の物語をつむぐ

●ふじきみつ彦さんのポリシー
- 真の悪人も、スーパーヒーローも出てこない
- 没落士族の娘一家と来日外国人との日常生活をたんたんと愉快に描く
- 人間世界で完結しない

→うらめしい世であっても時にゴーストの魔力が働いて素晴らしい世になることも







左 NHK 大阪のスタジオに再現された
松江旧居 右 同 熊本旧居の 書架の 再現





大阪歴史博物館の特別展「小泉八雲―怪談とフォークロリストのまなざし」
いずれも4月25日撮影

NHKドラマまつり「雨清水八雲邸」

●小泉セツ(Koizumi Setsu)―朝ドラ「ばけばけ」の主人公に



小泉セツ(節子)1868-1932
©Koizumi Family



セツの姿見(小泉八雲記念館)



東京世田谷の家で(1960年代後半)

●小泉セツ（1868～1932）の略歴

・1868年2月4日、松江藩士、小泉湊と妻チエの次女として、松江・南田町に生まれる。節分に生まれたことから、「セツ」と名付けられる。筆名では、おもに「節子」を使用。

・セツはお七夜の晩に、あらかじめ約束されていた遠戚の稲垣家へ養女に出され、以後、養父・稲垣金十郎、養母・稲垣トミに育てられる。
トミは口承文芸の伝承者でもあった。

・実父の軍事教練を眺めていた時に、フランス人ワレット（Frederic Valette）から、ルーペをプレゼントされ外国人コンプレックスがやわらぐ。



熊本時代の八雲とセツ
©小泉家



©小泉八雲記念館

セツの家族



実母 小泉チエ
Koizumi Chie



実父 小泉 湊



養父母 稲垣金十郎・トミ

小泉家



養祖父
稲垣万右衛門

ハーンと「オープンマインド」を発信　2009年～

●The Open Mind of Lafcadio Hearn プロジェクト

・ギリシャと日本の友好110周年の節目にあたり、「ハーンのオープンマインド」をテーマにした造形芸術を寄せるようにWeb上で世界のアーティストに呼びかけ、この趣旨に応じたアーティストが造形作品を寄せる。その後、松江、ニューヨーク、ニューオーリンズでも開催。



アテネ　アメリカン・カレッジ / American College of Greece　2009

The Open Mind of Lafcadio Hearn in New York

Book and Art Exhibition



Takis Efstathiou

●タキス・エフスタシウ氏の提唱
→「他者への公平で愛のあるまなざし」
→西洋中心でも人間中心でもない
まなざしで、五感を研ぎ澄ませて
対象をみつめる
→多様性(diversity)の尊重
→分断・自国中心主義とは対極



Landscape of Lefkada, Greece



Hearn Family





The Open Mind of Lafcadio Hearn in the USA, 2019

The 120th Anniversary of Lafcadio Hearn's Arrival in the USA
The Open Mind of Lafcadio Hearn in the USA
An Encounter Between the Fundamental Cultures of Japan and America

Lafcadio Hearn Reading Performance in the USA

Kwaidan

Kwaidan
Call of Salvation Heard from the Depths of Fear

New York Thu. 24th, October, 2019 7:30pm
Japan Society (Lila Acheson Wallace auditorium) admission: $30
(Presented by Japan Society)
https://www.japansociety.org/

Cincinnati Sun. 27th, October, 2019 2:00pm
Cincinnati Art Museum (Fath auditorium) admission: free
registration required
https://jasgc.org/event-3476629

New Orleans Tue. 29th, October, 2019 7:00pm
Tulane University (Freeman auditorium) admission: free
(The 25th anniversary of the friendship cities between Matsue and New Orleans)
http://www.japansocietyofneworleans.org/

Bon Koizumi (Lecture / Supervision)
Shiro Sano (Reading / Scripts)
Kyoji Yamamoto (Music)
Original text : **Lafcadio Hearn**

Calligraphy & design by nanami nanasawa

https://hearn2019.yakumokai.org/



ue City
ociety of Greater Cincinnati ,
n Society USA , Japan Society of New Orleans , Tulane University

ORIX Corporation USA
bassy of Japan in the United States of America, Shimane Prefecture
World Exposition 1970 Commemorative Fund

Lafcadio Hearn Japanese Gardens

(2015～)



「旅の始まり―トラモアとの縁」
「船出：未来の予感」
「アメリカへの旅」「ギリシャの庭」
「日本への到着」「せせらぎの庭」「森林」「平和と調和の庭」
「生き神様の伝説」



2015年、アイルランド・トラモアにオープンしたLafcadio Hearn Japanese Gardens

●TENOHA MILANO　怪談展「日本の幽霊と精霊たち」

2022.9～2023.3　9万5千人入場



“Don’t Cross the Red Bridge!”

「雪女」


スティーブン・ローラー | お女中(むじな) | エッチング Stephen Lawlor | O-Jochu (Mujina) | Etching
●2023年～日本、アイルランド
両国を巡回
アイルランド・日本
交流美術展
ラフカディオ・
ハーンとの
邂逅
怪談
KWAIDAN
Encounters
with
Lafcadio Hearn
An Exhibition
by Artists
from Ireland
and Japan
Cultúr Éireann
Culture Ireland
SEARS O'RIORDAN
SO
FINE ART EDITIONS
Ireland
Ambasáid na hÉireann | An tSeapáin
Embassy of Ireland | Japan
アイルランド大使館 | 日本
OPW
小泉八雲記念館
Lafcadio Hearn Memorial Museum
PRINT DEPARTMENT
柳沢画廊
YANAGISAWA GALLERY
Itazu Litho TOKYO
Yaizu
Lafcadio Hearn
Memorial Museum
山陰日本アイルランド協会
SANIN JAPAN-IRELAND ASSOCIATION


「怪
ハーンとの邂逅
アイルランド・日本
交流美術展
怪談がつなぐ、
日本とアイルランド
地
Kwaidan Links
Japan and Ireland







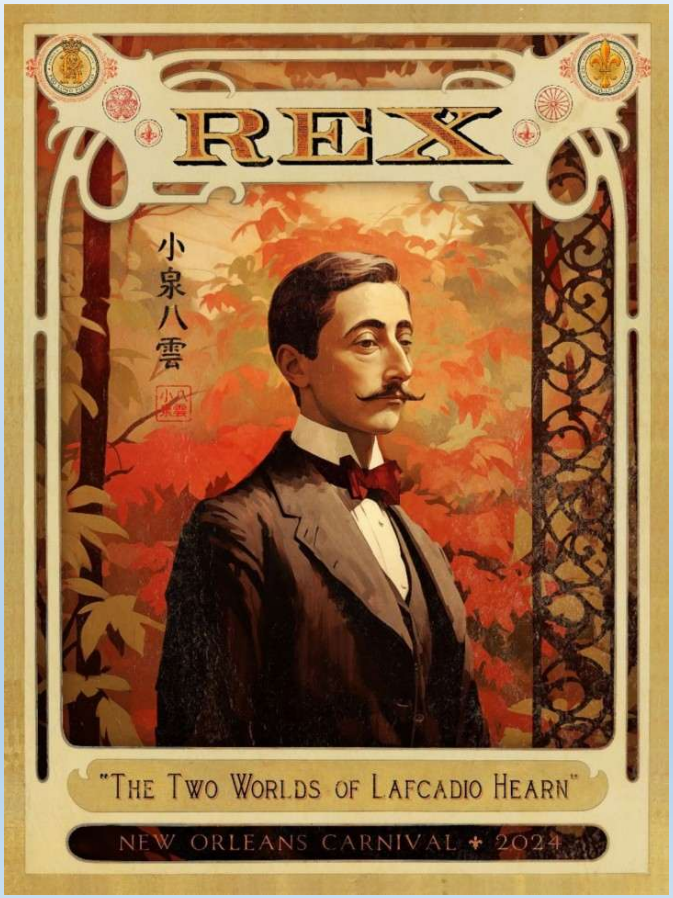


ダブリンでの「怪談アート展」とハーンシンポジウム（2025年3月6，7日）

●ニューオーリンズのマルディグラ(2024.2.13)

Rexのテーマは

”Two Worlds of Lafcadio Hearn”





Rex Parade, Mardi Gras 2024











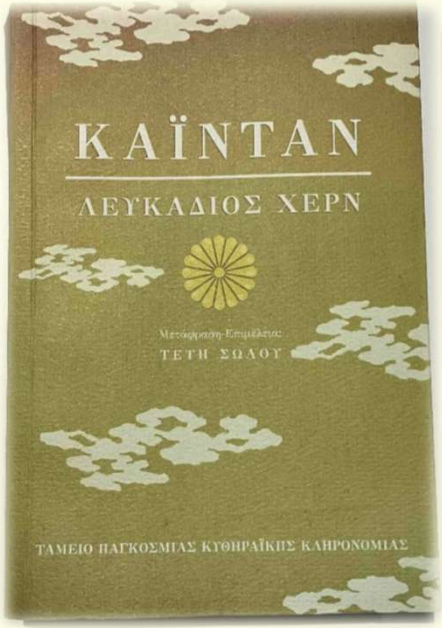
Krewe of Lafcadio, Mardi Gras 2024

●怪談作品翻訳の広がり

欧米主要言語や日本語のほか、ギリシャ語、ロシア語、ポーランド語、セルビア語、スウェーデン語、トルコ語、中国語、朝鮮語、イヌイット語、アイルランド語・カタルーニャ語など



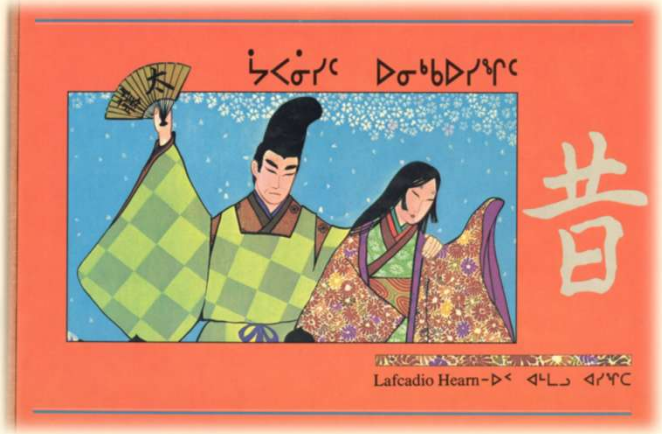
カタルーニャ語(2018)



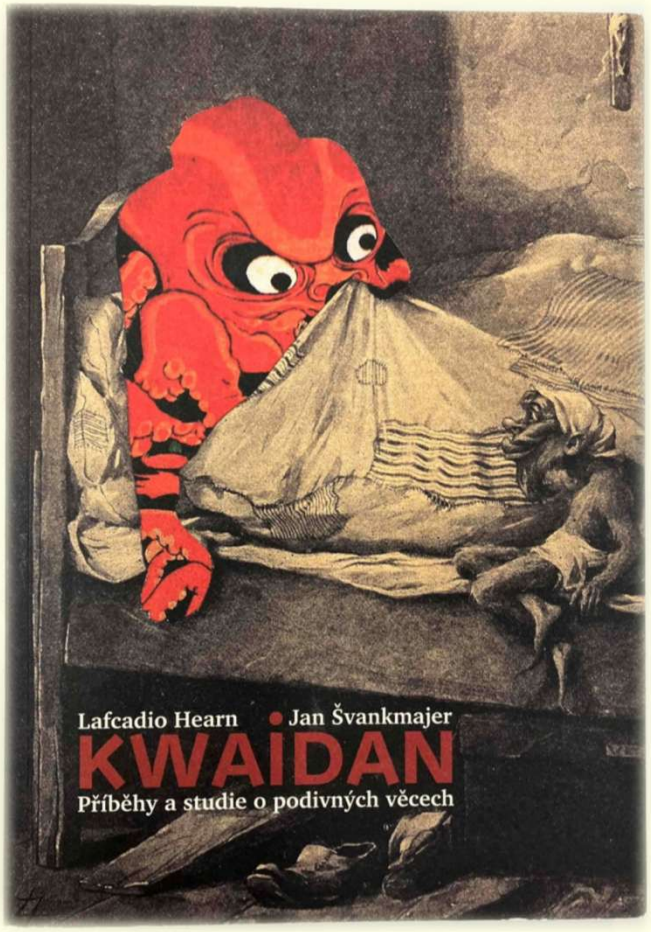
ギリシャ語(2017)

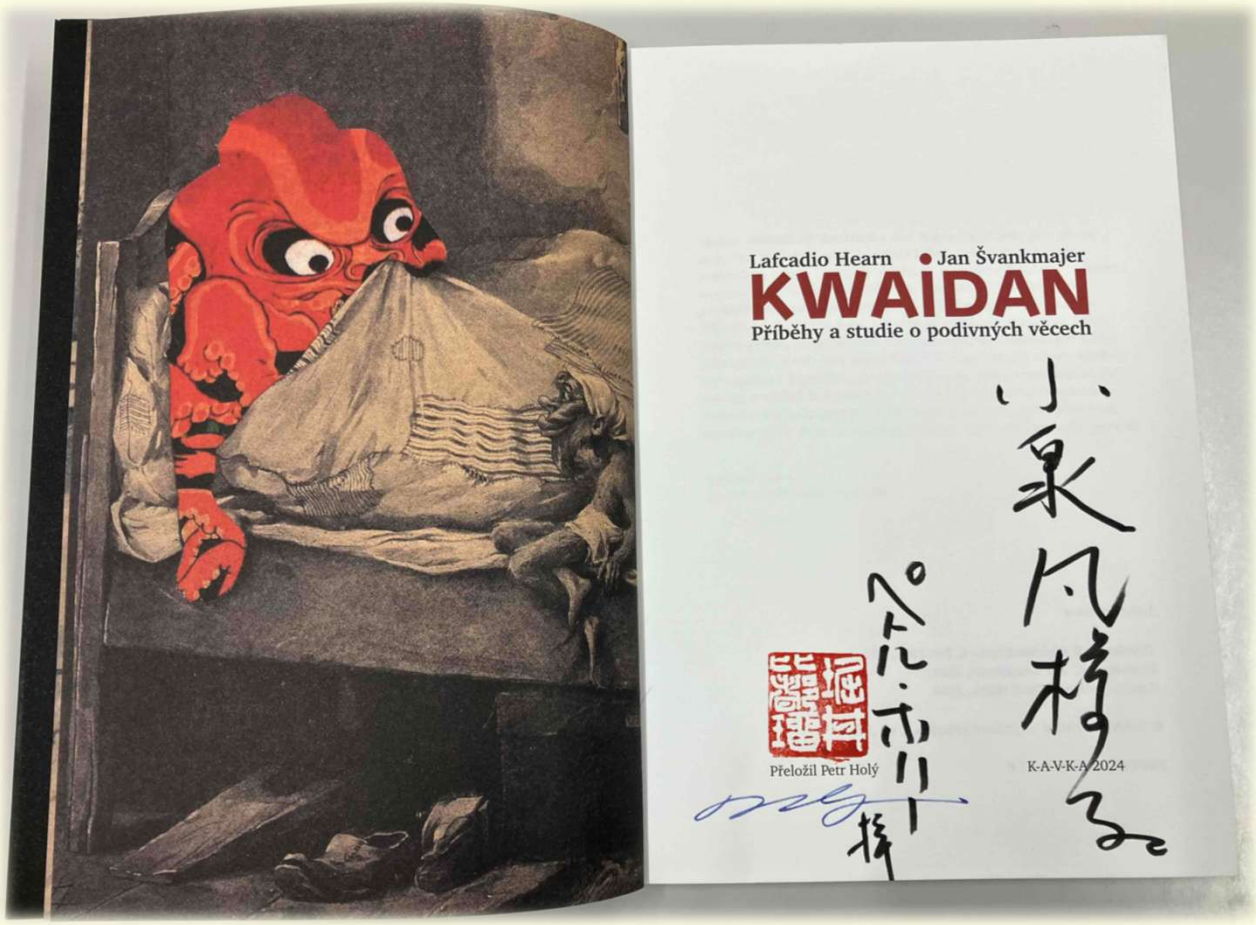


セルビア語(2012)



イヌイット語(1984)





（ペトル・ホリー訳　チェコ語　2024）

●自然への畏怖を教える怪談―人間と自然をつなぐ

「人生に生きる目的を与えてくれたのはゴーストです。あるものは神々と呼ばれ、あるものはデーモン、あるものはエンジェルと呼ばれましたが、彼らは人類のために世界を変化させました。彼らは私たちに生きる目的、自然を畏怖することを教えてくれました。」

What made the aspirational in life? Ghosts. Some are called Gods, some Demons, some angels; — they changed the world for man; they gave him courage and purpose and the awe of Nature that slowly changed into love; —they filled all things with a sense and motion of invisible life — they made both terror and beauty.

（1893.12.13付　チェンバレン宛書簡 / *Japanese Letters*, The Writings of Lafcadio Hearn vol.16,p84）

●世界が古代ギリシャに立ち返る必要を説く

「古代ギリシャ人たちは子供のように幸福で、またそのように心優しい人たちですが、同時にとても偉大な哲学者でもあり、今の時代でもわれわれは彼らに教えを乞うのです。今日、世界が必要を感じているのは、この古代ギリシャの幸福とやさしさの精神の回復なのです」

（「虫とギリシャの詩」）

Those old Greeks, though happy as children and as kindly, were very great philosophers, to whom we go for instruction even at this day. What the world now most feels in need of is the return of that old Greek spirit of happiness and of kindness.

（Insects and Greek Poetry, William Edwin Rudge, 1926）

●分断・対立・戦争・コロナ禍と現代



→人間中心主義の限界を感じ閉塞感

→八雲の怪談作品は、東洋と西洋、人と自然、生者と死者、現実世界と異界をつなぐ物語

→八雲とセツが紡いだ怪談に

＜つながり＞をもとめる人々の声音

―八雲とセツが紡いだ怪談作品は

それにこたえる文学


Thank you
for your Attention!
©Koizumi Family